

「手賀沼魚類・貝類 調査」

手賀沼水生生物研究会

鈴木盛智

2020年9月20日(土)9:00~15:00 参加13名 天気:曇り

調査はモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行った。



	根戸新田	大津川河口	見晴台	フィッシングセンター	フィッシングセンター向い	岩井新田	親水広場前
	9:15~9:45	10:15~10:45	11:20~11:50	12:15~13:20	13:30~14:00	14:20~14:45	14:50~15:15
底質	ミズスマシ号 砂>泥	ミズスマシ号 岩>くぼみに泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<泥	ミズスマシ号 砂<腐植質の泥	ミズスマシ号 砂<泥
	モンドリ: 6		モンドリ: 5	モンドリ: 5	モンドリ: 5		
モツゴ	118		5	99			
ギンブナ							
タモロコ				1			
ツチフキ							
タイリクバラタナゴ	3		1	9			
ヨシノボリ	1						
ヌマチチブ				1			
スジエビ	1			71			
テナガエビ				1			
シナヌマエビ							
タウナギ							
カダヤシ				2			
ブルーギル							
	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ	ガサガサ		
モツゴ	○	○	○		○		
ギンブナ							
ゲンゴロウブナ		○					
タモロコ							
ツチフキ	○	○					
タイリクバラタナゴ	○	○			○		
タイリクバラタナゴ稚魚	○	○					
ヨシノボリ	○	○	○				
ヌマチチブ	○	○					
スジエビ	○	○	○		○		
テナガエビ		○			○		
シナヌマエビ	○		○				
タウナギ	○		○		○		
カダヤシ							
ブルーギル	○	○	○				
ドブガイ生体	2 (稚貝1)	1	3		8		
ドブガイ貝殻	○	○	○		○		○
イシガイ貝殻					○		
カラスガイ貝殻					○	○	
カワヒバリガイ							
ナガエツルノゲイトウ	○	○				○	
オオバナキンバイ	○	○				○	

移動中確認した魚類 ハクレン、ボラ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ



根戸新田ではナガエツルノゲイトウ、オオバナキンバイの特定外来植物の生息域の拡大が顕著であった。生き物の数、種類ともに今回は一番多く、外来植物下が隠れ家として機能している皮肉な結果。



昨年まであった手賀沼大橋下のハス大群落は全く無くなってしまった。原因は不明。そのため腐泥が下流域に達し、底質への影響が大きく、親水広場下流や岩井新田のヨシ、ガマ群落も比べると大幅に減少した。また魚類の生育状況も例年より育ちが遅く小さい個体が多かった。例年フィッシングセンターでは数多くのコイ科の小型魚類が確認できるが、今年は半分以下に減少した。貝類の生体確認数は手賀沼大橋上流部では例年並みに密度は薄く、見晴台ではやや減少、フィッシングセンターでは例年通りであったが、岩井新田ではハスが枯れた影響もあり全く確認できなかった。



沼本体のフィッシングセンターでのモンドリ調査で初確認したカダヤシ